

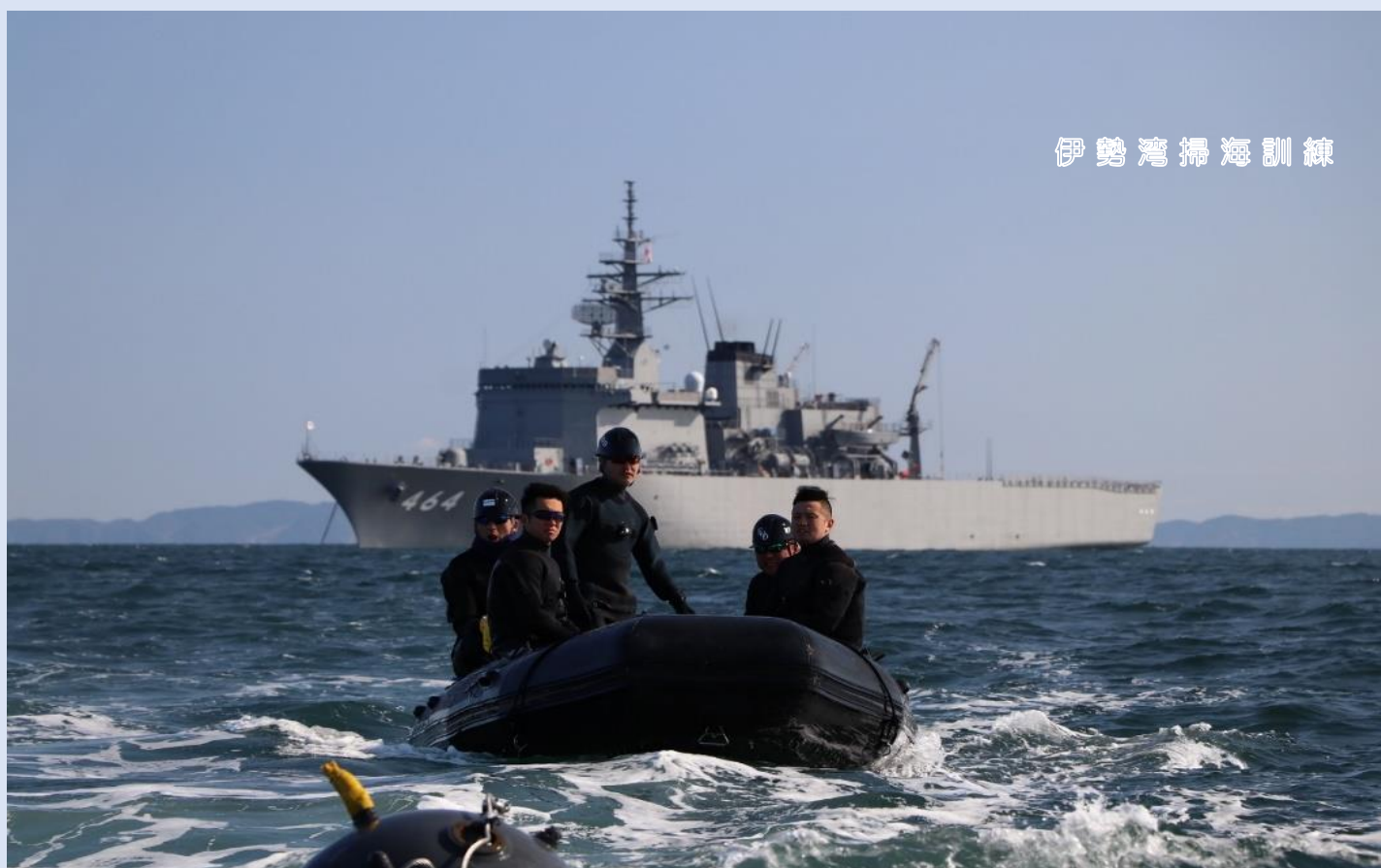
TOKAI

東海防衛だより

2020
令和2年

夏

伊勢湾掃海訓練



東海防衛支局の取組等／東海3県の自衛隊の動き

- ◆ 伊勢湾掃海訓練
- ◆ 伊勢市立明野小学校（特別教室棟 併行防音工事）
- ◆ 災害派遣（豚熱）活動に係る岐阜県知事からの感謝状授与
- ◆ 愛三岐の街から ～三重県 伊勢市～

東海3県の防衛生産・技術基盤

- ◆ 新たな防衛計画の大綱の策定とこれを支える東海3県の防衛生産・技術基盤

伊勢湾掃海訓練

令和2年2月1日から10日までの間、伊勢湾の松阪港沖約13 kmに設定された訓練海面において、海上自衛隊掃海隊群に所属する全国の掃海部隊から掃海母艦「ぶんご」、輸送艦「くにさき」を含む艦艇20隻、航空機2機、米海軍から水中処分員約10名が参加し、伊勢湾では初となる日米共同での掃海訓練（機雷戦訓練）が実施されました。



輸送艦「くにさき」と掃海母艦「ぶんご」



模擬機雷処理訓練に向かう水中処分員（自衛隊）

この訓練は、掃海艇や掃海ヘリコプターを使用し、機雷の除去・処分や敷設を行う能力の維持向上を図るため、日本沿岸の海域で訓練に適した地域において毎年行われているものです。なお、伊勢湾での掃海訓練は、平成22年度以降9回目の実施となります。

海上自衛隊は、現在、伊勢湾を含め全国4箇所です。伊勢湾での掃海訓練は、年度を締めくくる総括的なものとして、海上自衛隊にとって極めて重要な訓練です。また、訓練の間は、伊勢湾周辺の漁業者の皆様の実業制限を行うこととなります。この訓練は、愛知県、三重県各漁業協同組合連合会や訓練設定海面に近い地域の各漁業協同組合の皆様のご協力の下に成り立っております。

今後とも、伊勢湾における訓練の必要性、重要性に対する地元の皆様方のご理解、ご協力を頂きながら、伊勢湾での掃海訓練を継続的に実施できるよう努めます。

伊勢市立明野小学校 (特別教室棟 併行防音工事)

明野飛行場
周辺

防衛施設周辺対策事業とは、自衛隊等の行為又は防衛施設の設置若しくは運用により生ずる障害を防止又は軽減するための事業です。

同小学校先生の声
防音工事を行ったことにより、航空機による騒音が軽減され、授業が快適にできるようになりました。



施設外観 (特別教室棟)

防衛省では、地方公共団体などが、航空機騒音を防止又は軽減するために行う防音工事に対し、補助金を交付しています。

伊勢市立明野小学校は、地域の急速な住宅開発等から、近年は児童数が増加しており、必要となる普通教室と特別教室を計画・整備し、各教室の適正な配置を図る目的から、平成30年度に理科や音楽等の授業を行う「特別教室棟」の増築工事を行いました。

この小学校の近隣には陸上自衛隊明野飛行場が所在していることから、当局では、同飛行場で行われる航空機等の離発着等による騒音を防止又は軽減するため、「特別教室棟」の増築工事に併せて、防衛施設周辺防音事業として、空調機器等の設置のため、約2500万円の補助を行いました。

増築された「特別教室棟」は、令和元年度から各特別授業に使用開始されています。



音楽室



理科室



家庭科室



図工室

災害派遣（豚熱）活動に係る 岐阜県知事からの感謝状授与（第35普通科連隊）



感謝状授与式 古田岐阜県知事 連隊訪問

第35普通科連隊（連隊長・曾根勉1等陸佐（当時））は、3月13日、古田肇岐阜県知事から、岐阜県内で平成30年から令和元年にかけて発生した豚熱（CSF）に対する災害派遣活動による貢献により、感謝状が授与されました。

感謝状授与式は、定期異動に伴う連隊長離任行事に先立って、連隊全隊員参加のもと執り行われたもので、同授与式において、古田岐阜県知事は、「本日は、心から感謝を伝えに参りました。この1年有余の間、まさにワンチームとして私どもは豚熱問題と戦ってきたという思いであります。（中略）何と言っても8つの農場で延べ3万6608名の自衛隊の皆さんのご支援なくしてこの1年間の闘いはあり得なかったということでございます。マイナスイ度を下回る寒冷の中での作業、豪雨の中での作業、40度を超える猛暑の中での作業もございました。待ったなしの防疫作業を、皆様方のご支援・ご指導によって何とかやってきた、というのが実感でございます。本当に心から感謝を申し上げる次第でございます。」と、連隊による災害派遣活動への謝意を述べられました。



豚舎内の清掃作業中の隊員

「連隊長が駐屯地司令を兼ねない師団「旗本」連隊である第35普通科連隊の行事に、担任隊区県知事が参加されるのは極めて異例のことであり、今回の感謝状授与式のための古田岐阜県知事の連隊訪問により、同授与式に引き続き執り行われた曾根連隊長の離任行事に、最高の花を添えて頂きました。（豚熱に係る災害派遣活動を行った陸上自衛隊第10師団に対しては、愛知県知事、岐阜県知事及び田原市長から感謝状が授与されている。）



殺処分後の運搬を行う隊員

豚熱は平成30年9月、わが国内では26年ぶりに発生。連隊は平成30年12月、自衛隊として初めて豚熱に係る災害派遣に従事して以来、令和元年9月までに計6回、岐阜県内の畜産農家を対象とした災害派遣部隊の主力もしくは単独で災害派遣を担当したほか、2回の部隊差し出しを行いました。最初の災害派遣においては、年末・年始休暇中の平成30年12月24日に8千頭を超える大規模農場にて発災。同日夜には、未だ非常呼集がかかっているにもかかわらず、多くの隊員が自ら進んで休暇先より各中隊に帰隊し、災害派遣に向けた準備を始



豚舎内の消毒作業中の隊員

め、翌25日未明の第3種非常勤務態勢移行後は、日本各地で休暇・旅行中だった隊員が、クリスマスイベントと一緒に楽しんでいた家族友人と別れて守山駐屯地へ帰隊したり、準備していた海外旅行・帰省をキャンセルして続々と中隊に復帰したりと、同日中に連隊は誰一人欠けることなく集合を完了しました。また、連隊は、家畜伝染病発生に伴う殺処分等防疫措置の緊急性に鑑み、岐阜県知事による自衛隊への災害派遣要請に先立って駐屯地を出発・展開を開始し、25日5時30分の岐阜県知事による災害派遣要請時には既に現場に進出して、速やかに所要の作業開始が出来る態勢を確立しました。

じ後、昼夜を分かたず殺処分運搬支援、清掃消毒等を行い、当初予期された作業終了時期である1月2日を大幅に短縮する12月27日に全ての担任作業を終了し、翌28日に撤収・帰隊しました。正に、連隊長統率方針である「事態即応・任務完遂」を具現した活動となりました。28日の帰隊後には、直ちに連隊長から師団長に本活動に係る教訓等を報告すると同時に、対処マニュアル作成に着手しました。現在までに豚熱に係る災害派遣活動に従事した陸上自衛隊各部隊で共有・使用されている対処マニュアルは、第35普通科連隊が作成したものがベースとなっています。



殺処分する獣医師の支援を行う隊員



鈴木健一 伊勢市長

【つながりが誇りと安らぎを育む
魅力創造都市 伊勢】

伊勢市は、三重県の中東部に広がる伊勢平野の南端部に位置し、伊勢志摩国立公園の玄関口であり、海・山・川の美しい自然に彩られたまちです。

古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた神宮ご鎮座のまちとして栄え、「おかげ参り」が流行した江戸時代には、当時の日本人の6人に1人が伊勢を訪れたと言われていています。全国各地から神宮を指して、大勢の人々が訪れたことで、情報が集積し、独自の文化が形成され、人々の間には様々な交流が生まれました。この交流の歴史が多様な活動の場をつくり、伊勢の人々に「おもてなしの心」が培われ、現在まで継承されてきて

います。

また、このまちには、神宮とともに歴史を刻んできた街並みや民俗行事、風習などが息づき、それらがほかのまちとの違いを生み出し、まちの「誇り」として培われています。

市では、平成30年に、市民の皆様と共有するまちづくりの行動指針として、令和11年度を目標年次とする第3次伊勢市総合計画を策定し、「私たちが担うまち」「人と人とのつながりで活力と安心を感じられるまち」「地域の誇りをつなぐまち」を基本理念に据え、



宇治橋



川曳き

「つながりが誇りと安らぎを育む魅力創造都市 伊勢」を本市が目指すまちの将来像として基本構想に掲げました。

市民の皆様とまちづくりの基本理念を共有し、急速に進行する人口減少や少子・高齢化という大きな課題に対応するための諸施策に継続して取り組み、観光、産業の振興、中心市街地の活性化、地域福祉、子育て支援の充実を図るとともに、市民の防災意識を高め、災害に備える地域づくりを推進しています。

そして、市民の皆様、関係団体行政が共に協力しあい、様々な

「つながり」によって「住みたい・住み続けたい・訪れたい」と思っていたただけるまちづくりを進めています。

【自衛隊との関わり】

航空学校本校を併設した陸上自衛隊明野駐屯地は、古くから地域に根差し、毎年秋に実施される航空祭は、地域に親しまれるイベントとなっています。

また、災害に備え、地域の防災訓練において、合同での炊き出しの実施や装備の展示などの協力をいただいています。



防災訓練において炊き出し中の隊員

新たな防衛計画の大綱の策定とこれを支える 東海三県の防衛生産・技術基盤（その一）

東海三県の防衛生産・ 技術基盤

東海防衛支局では、防衛省が民間企業から自衛隊の装備品等を調達するに際して、製造工程での作業が適切に実施しているかの監督や、完成品が品質、規格、性能等を満足しているかの検査をすることにより、高品質の装備品等を円滑に調達しています。

また、当支局の管轄区域の東海三県には、三菱重工(株)名古屋航空宇宙システム製作所、川崎重工(株)岐阜工場など、防衛省・自衛隊の活動に必要な装備品等の開発、生産、改修等を担う重要な防衛生産・技術基盤となる民間企業が数多く所在しています。

本連載では、我が国の防衛力整備に重要な役割を果たす東海三県の防衛生産・技術基盤に焦点を当て紹介していく予定です。この初回連載の記事では、装備品等の調達のトレンドを俯瞰的に捉えるため「新たな防衛計画の大綱」で領域横断作戦のための優先的事項とした三項目に係わる装備品等の概略の紹介を致します。

新たな防衛計画の大綱

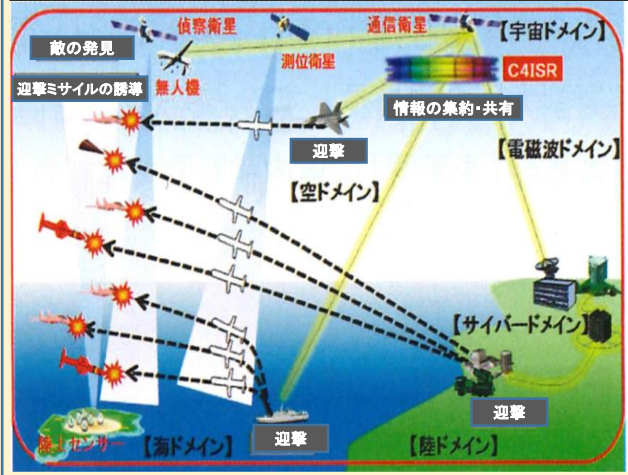
新たな大綱では、安全保障環境の変化に対応するため宇宙・サイバー・電磁波といった新領域での能力と従前の領域での能力を融合し、相乗効果を高める領域横断作戦を推進するとしており、優先的事項を①宇宙・サイバー・電磁波の領域における能力の獲得・強化、②従前の領域における能力の強化、③持続性・強靱性の強化の三項目として具体化しています。

領域横断作戦のイメージ(例：防空作戦)

これまでの統合運用：各領域(ドメイン)の防空部隊が対処



領域横断作戦：各領域の防空部隊が1つの防空システムとして対処



F-15戦闘機の電子戦能力等の能力向上

① 宇宙・サイバー・電磁波の領域における能力の獲得・強化

領域横断作戦を実現するため、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域における能力を獲得・強化するとしております。管轄区域では、F-15戦闘機の電子戦能力等の能力向上の機体改修などが実施されています。

② 従来の領域における能力の強化

領域横断作戦の中で、新たな領域における能力と一体となつて、航空機、艦艇、ミサイル等による攻撃に効果的な対処をするための能力を強化するとしております。

③ 持続性・強靱性の強化



新小銃の取得

管轄区域では、新小銃、F-135A及びC-12輸送機・P-1固定翼哨戒機の製造、PAC-3 MSE運用のためのペトリオットの能力向上改修などに取り組んでおります。

平時から有事までのあらゆる段階において、必要とされる自衛隊の各種活動を継続的に実施できるよう、後方分野も含めた防衛力の持続性及び強靱性を強化する必要な措置を推進するとしております。

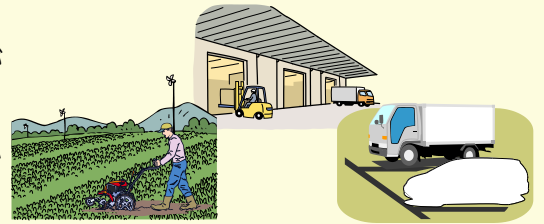
管轄区域内では、89式5.56mm普通弾などの弾薬、燃料などが製造されておりあります。

周辺財産（移転補償跡地）の個人・民間に対する有償使用許可のご案内

各務原市に所在する航空自衛隊岐阜基地（岐阜飛行場）の周りには防衛省所有の土地が点在しています。昨年度から、土地の有効活用のため、個人や企業の方々に対して有償による貸付（使用許可）をしております。

駐車場や物置、畑などに利用でき、簡易な建物も設置することができます。

対象となる土地や利用の流れなど、詳細は東海防衛支局のホームページをご覧ください。下記までお気軽にお問合せ下さい。



東海防衛支局ホームページ 「基地周辺住民の皆様へ」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/oshirase/O1siyoukyokagoannnai.pdf>

お問合せ先／施設補償管理課 052-952-8224



自衛隊地方協力本部からのお知らせ

地方協力本部（地本）は、各都道府県にある自衛隊の総合窓口です。

愛知地方協力本部

（電話）052-331-6266

<https://www.mod.go.jp/pco/aichi/>



●「自衛隊広報ルームへ、ご招待♪」

自衛隊の写真パネルや模型、実物大の装備品などを展示している楽しいスポットです。自衛隊グッズがゲットできるイベントDAYもありますので、ぜひ遊びに来て下さい！

岐阜地方協力本部

（電話）058-232-3127

<https://www.mod.go.jp/pco/gifu/>



● 防衛省自衛隊広報センター「自衛館」

自衛隊のパネルや「親子プラモデル教室」で作成されたプラモデル、装備品の模型などを展示している楽しいスポットです。ぜひ遊びに来て下さい♪

三重地方協力本部

（電話）059-225-0531

<https://www.mod.go.jp/pco/mie/>



● 各種イベントや自衛隊に関する情報を紹介！

各種SNS
(Twitter、Facebook、Instagram)も随時更新中！
詳しくは、ホームページでお待ちしております。

自衛官等募集案内

募集種目	応募資格	受付期間	試験期日	合格発表
自衛官候補生	18歳以上 33歳未満の者	年間を通じて行っています。	受付時にお知らせします。	合格発表は試験日にお知らせします。

詳しい情報は、最寄りの自衛隊地方協力本部へお気軽にお問合せください。

新着任者紹介



次長（総務、施設）
菅 秀樹

令和2年4月1日付で東海防衛支局次長を拝命しました菅です。
東海防衛支局が管轄する東海3県には、自衛隊の活動を支える多くの防衛施設や防衛生産・技術基盤が所在しています。
東海地域における勤務は初めてとなりますが、当支局がこれまで築き上げてきました関係自治体をはじめとする地域の皆様との信頼関係を大切に、さらに発展するよう微力ながら努力して参りたいと考えております。
今後とも、地域の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

